

# らい 来ぶらり 36

## それぞれの「学習院の肖像」のために

学習院院史資料室



図書館の書庫1層には、制度史料中心の院史資料室とは違って、いわゆる“学生文化”を知るうえで貴重なさまざまな資料が収められている。

たとえば吉村昭・津村節子氏夫妻、中村正軌氏らの作家を輩出した『学習院文芸』と、その

後身『赤絵』が創刊号から第16号まで揃っていて、「(文芸部の雑誌に小説を載せた短大の)その女子学生と何度か会って話しているうちに、非常に話が通じる。何か冗談を言うと、驚くほどよく笑う。笑う人間というのは神経が鋭く頭がいいのだというのが私の信念で、「その女子学生のことが気になり始めまして、今、なんとなく私の女房になっています」という吉村氏の“回想”を裏づけてくれる。なお津村氏(当時は北原姓)ら短大文芸部編集の『はまゆふ』は残念ながら第2・3号しか残っていない。

また戦争中、東文彦・徳川義恭と『赤絵』という名の雑誌を出した三島由紀夫の新『赤絵』寄稿文に「今度の『赤絵』は薄命どころか、雑草のごとく(失礼)強靱な生命力をもつてゐるらしい。旧『赤絵』は、昔の貴族で線の細い学習院と、戦後の雑然とはしてゐても逞ましい学習院との好対照をなしてゐるよ

うに思はれる」とみえる。2号で終わった旧『赤絵』が手に入らなくとも、3人が『輔仁会雑誌』に寄せた詩と小説を通して、新旧『赤絵』の“比較”はできるかもしれない。

旧『赤絵』の創刊に先だつ1939年春、高等科文科3年の学生が急逝した。その死が自裁であったことを1981年、美術評論家徳大寺公英氏の「私の『学習院の肖像』」(輔仁会雑誌所載)によって私たちは知らされる。徳大寺氏は「太平洋戦争は二・三年後にせまっていた。Kの必死の精神的抵抗にもかかわらず、世の中は怒涛の勢ですべてを押し流していった。そういうなかでKは孤独な死を選んだのであった」と追懐し、学習院時代どこから見ても模範生であり「戦後の繁栄の時代に名声をほしいままにしながら死を演じてみせた三島君」の死と、Kの死を「私自身の学習院体験と切り離して考えることは出来ない」として、氏のもっている「学習院の肖像」の「額縁のなかに二人のそれぞれ特徴のある眼差がきわだってはっきり描かれているのである」と結んでおられる。

理学部自治会雑誌として1957年創刊の『共鳴』は内容の高さ・豊かさの点で他に例をみないものであり、基督教研究会の雑誌『交わり』『我と汝』の持続性も敬服に値するもので、ともにそれぞれの「学習院の肖像」を描くための手がかりとなるにちがいない。

こうした資料をもとに、いつか本院の“学生文化”の歴史が書かれる。

## サークル誌収集余話

何年か前に学習院資料のサークル誌の充実を図ろうと、学内のサークル宛に「当館では院内刊行物を学習院資料として永久保存していますので、貴部（会）発行の資料をご寄贈ください」という内容の寄贈依頼状を出したことがある。いくつかのサークルから反応があり、寄贈を受けた。中には、もうサークル自身の保存分もないのに、「バックナンバーは図書館で見ればいい」と、貴重な1冊を寄贈してくれたサークルもあった。

時には、図書館でアルバイトをしている学生に「あなたのサークルの出版誌を寄贈して」と頼み込んだり、大学祭の展示会場で偶然目にしたものをこのときとばかりにもらって来ることもある。過去には、4月の新入生歓迎行事期間に各サークルの出店を回って、収集したこともあるようだ。

いずれにせよ、こちらから声をかけないと、なかなか集められるものではない。

各サークルでどんなものを発行しているかの全容を把握することができず、こんな方法で収集している訳だから、網羅的に集めるのは、残念ながら、不可能なことだ。それでも、「学習院資料を集めて保存する」ために、図書館から時折寄贈依頼をすることになる。

こうして集めたものを見てみると、部員間のコミュニケーションを図るために作られた『楓』・『Harmony』、研究活動の成果を発表した『瓢鮎抄』・『各駅停車』、文芸作品発表の『赤絵』、中にはわら半紙に謄写版刷りのものもあるなど、どれからも各サークルの個性や熱意が伝わってくる。（雑誌係 工藤晶子）



## ごぞんじですか？

## G 資料

図書館の目録カードを引くと請求記号（カード左上に付いている記号）にG3とかG9などの付いたものがみつかります。これは学習院の頭文字のGに、資料の主題を表わす数字を組み合わせたものです。

G資料とは、学習院で編集あるいは発行された資料及び学習院に関する資料の略称なのです。

図書館では学習院関係の資料を積極的に収集しており、その範囲は初等科から大学・法人のもの、あるいは輔仁会のサークル関係のものなど、すべてを網羅するように努めています。

資料の量は『学習院百年史』などの単行書約320件、各学部の紀要その他の逐次刊行物は約230タイトルにのぼり、書庫内にコーナーを設けて収めています。この他に、旧分類の資料の中にも学習院関係のものがかなりあります。

資料は基本的に各2部づつ受入れ、1部は保存用、1部は利用可能な状態にしています。

古いもの、変わったものとしては『学習院學生家紋集』（写本）、『學習院徽章賣渡證文』（明治22年）、『學習院構内植物目録』（昭和6年）などがあり、また学習院編纂・刊行の明治期の教科書の類も所蔵しています。

利用についてみると、学生からはサークル関係・紀要類など、卒業生や学外者からは『輔仁会雑誌』・敷地や校舎の古い写真、教職員からは過去の『学習院新聞』や制服規程などの請求があります。

図書館に来て目録カードを引いてみてください。意外な資料が見つかるかもしれません。

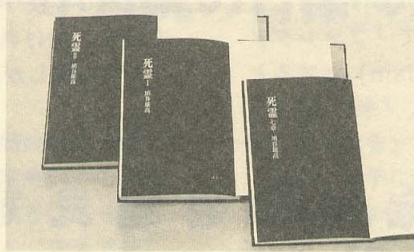
（運用係 上野しのぶ）

猫ほど毀誉褒貶の激しい動物もいませんが、飼っているうちに、猫嫌いも猫好きになってしまうという面白い性格の持主です。『猫鏡』（花輪莞爾著 平凡社 1990年刊）を購入しました。民族篇あり文学篇ありの趣きの深い好著です。

かつて『死霊』は幻の小説であった。少なくとも60年代後半に高校生活を送ったものにとってはそうである。当時、埴谷雄高氏の著作で手に入ったのは『不合理ゆえに吾信ず』と短編集『虚空』、そして名高い政治評論集『幻視のなかの政治』といくつかの評論集ぐらいであったろうか。唯一にして未完の長編『死霊』は、伝説的相貌をもって語り継がれるだけで、実際に読んだものは周囲の仲間内でもいなかった。その『死霊』がやっと私たちの前に姿を見せたのは、1967年に刊行された『全集・現代文学の発見第7巻 存在の探求 上』（学藝書林）

によってであった。ここに収録されたのは、『近代文学』1946年1月号から48年3月号に連載された第1章から第3章までで、著者自身の構想からすればほんの一部に過ぎないものであったが、枯渇の内に在った私たちにとってはまるでその全貌に触れる思いであった。翌年には集英社版『日本文学全集84巻』に、71年には『埴谷雄高作品集1』（河出書房新社）にそれぞれ収録された。

## 埴谷雄高



## 『死霊』

そして、学藝書林版の刊行から8年の歳月を経て、1975年7月に第5章〈夢魔の世界〉が突然『群像』に発表され、翌76年には、未発表の第4章〈霧のなかで〉を含む全5章が『定本 死霊』として講談社から刊行されるに及んで、私たちはこの小説が未完で、なお書き継がれる可能性があることに改めて思い至るのであった。

その後『死霊』は、1981年4月に第6章〈愁いの王〉、84年10月に第7章〈最後の審判〉、86年9月に第8章〈月光のなかで〉がそれぞれ『群像』に発表された。単行本としては、定本版自序で著者自身が予告したとおり、第1-3章までを『死霊I』、第4-6章を『死霊II』として再刊し（共に1981年）、第7章（1984年刊）、第8章（1986年刊）は単独で刊行された。これらは当然第9章の完成を待って『死霊III』となるはずである。

埴谷氏は、昨年の三田誠広氏との対談（『すばる』12月号）で、現在も第9章を執筆中であると語り、なお健在ぶりを見せている。20数年来のいち読者としては、この小説がさらに書き継がれることを、そしてなによりも氏のいっそうの長寿を、祈らずにいられない。（洋書係 中山高二）

## 知られざる

## 図書館の利用法

大半の学生にとって図書館とは待ち合わせや試験前の追い込みのための場所である。私もその例に漏れないのであるが、論文を書くに当たり図書館が代行してくれる他大学への文献の所蔵調査や複写依頼のサービスは何より心強い存在である。学習院で所蔵していない本や論文を参照したい場合、参考室備えつけの、例えば『国会図書館新収洋書目録』や『学術雑誌総合目録』に当たり、所蔵する大学を探す。近場であれば紹介状持参で目当て

の大学を訪ねればいいし、遠距離の場合は学習院に郵送されるのを待てばよい（郵送料は自己負担であるが“海賊”のビール1本とかかわらない。）

私は夏休みに幾つもの大学を回ったが、訪れる機会のない他大学を訪ねることは楽しみだったし、職員の方々から情報を得ることも多かった。慶応大学三田校舎のような開架式の図書館であれば思わぬ収穫があるかも知れない。また具体的に書名がわからない場合でも、学習院の図書館の方に大まかな主題を伝えれば、丁寧に関連する本を調査してもらえるので、これも使わない手はない。ちなみに私が依頼したのは同性愛の歴史関連の資料である。

（日本文学専攻M2年 柴田英光）

## 参考室あれこれ

参考室カウンターにパソコンが置いてあるのを知っていますか？自分の探している資料が学習院大学にない時、論文・レポート作成に課せられたテーマの資料を探したい時、参考室を訪れた人はご存じかもしれません。NACSIS-IR と日経ニュース・テレコンに接続して文献探しの手助けをしています。

例えば、「アメリカの宗教」に関する文献を探すと、文献件数が多すぎてしまいますが、その中をしぼって「ファンダメンタリズム(Fundamentalism)」とすると2件ヒットしました。また、「米の自由化」

に関する新聞記事を探すと、それこそ膨大な数になりますが、「宮城米ひとめぼれ事件」の記事だと28件ありました。同じようにピカソに関する文献となるとこれもまた特定できない程ですが、「ゲルニカ」に関するものとなれば限定されてきます。

新聞記事、雑誌論文、図書、国内刊行物、外国文献、発行年代 etc. 文献を探すにもいろいろな条件があります。外部のデータベースを使う場合に何よりも注意したい事は、そこに収められたデータの限界を十分に理解して使う事でしょう。キーをたたいて出てこなければ文献はなしとせず、そこから文献探しが始まると思っています。

(参考係 甲斐静子)

## 太平洋を越えて



大学図書館の2階には和書と洋書の目録がある。カウンターから見て右手が和書、左手が洋書である。同じ目録だが、どこか風景が違う。右手には、背の低いカードボックスの上にオレンジ色の冊子体目録があり、手前には端末もある。左手はどうだろう？背が高く新し目のカードボックスはあるが、他に何も見当たらない。

扱う言語が違うだけで、検索手段も違うのである。端末検索ができないからといって、コンピュータに入力していないわけではない。

2万冊余りのデータを、遙か太平洋を衛星回線で飛び越えてカナダのトロントにあるデータベースに登録している。登録は瞬時であるが、検索には遠すぎる距離のようだ。

その距離を縮める作業を、来年度を目標に行っている。カナダのデータを学習院の計算機センターに取り込み、端末検索を可能にする計画だ。カナダまで、簡単な近道はなさそうだ。

(洋書係 入村和彦)

## お知らせ

### ●試験シーズン到来！

- 図書館が最も混み合う季節です。ゆずり合って上手に利用しましょう。
- 必要な本は早く借りるのがコツ。調べ終わったら、次の人のために、速やかに返しましょう。
- 図書館内では静かに！閲覧室で大きな声で話すのはやめましょう。

○館内では飲食禁止！飲食は屋上休憩室で。

○コピーサービス

図書館でコピーできるのは、「本学所蔵の図書・雑誌」のみです。ノート類のコピーは藁々会をご利用ください。

### ●卒業予定の皆さんへ！

卒業生も図書館の本を閲覧できます。ご利用をお待ちしています。お元気で！

来ぶらり No.36 1992年1月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：石田京子 広瀬淳子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221